

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなってしまうよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員から、職員の意見にどのように対策を取ったか分かりづらい。管理者の意見を分かりやすく説明してほしい。全ての職員の意見を聴いてほしい」と意見が上げられた。	経営者や管理者に対し、職員から意見が上がった場合は、可能な限りそれに対する結果を職員に伝える。管理者は、全ての職員の意見に耳を傾けるとともに、自己の考えを分かりやすく職員に伝える。	月に1回のミーティング以外にも、検討が必要な意見等があった場合は、随時のミーティングを実施し、管理者と職員間で意見交換を行う。結果、適当な事柄であった場合は、確実に実施して行く。経営者や管理者に対する職員からの意見があった場合には、その対策について、職員に伝える。	1ヶ月
2	40	食事のメニューについて、職員が立てている。食事の際に、落ち着かない雰囲気を感じられる。食事づくりについて、法人内の他事業所でホームの昼食と夕食のおかずを調理職員が作っているため、利用者が関わる機会が少ない。	食事を一日の大切な活動の一つとして捉え、メニューを利用者と一緒に考えたり、一からの食事作り、食事への関心や食欲が高まるような会話・介助の方法、落ち着いてゆっくり楽しく食事ができるような雰囲気づくり等についても、工夫していく。	ホームで提供する食事について、残食の多いメニューを把握し利用者の好みとすり合わせた上で利用者と一緒に献立づくりをする機会を作りたい。毎日ホーム職員が作っている夕食の味噌汁を可能な限り職員と利用者が行くと共に、他の食事づくりについても利用者が関われるように検討していきたい。配膳や下膳を含んだ食事の後片付けや準備にも、出来るだけ利用者と職員が一緒に行く。利用者と職員が、一緒に食事を食べ始めることで、食事が落ち着いた雰囲気となるようにする。食事介助が必要な利用者の方にもメニュー内容を説明しながら介助をしたり、食事摂取の妨げとならない程度の会話や声かけを行い、食事を楽しめる雰囲気となるようにする。	2ヶ月
3	35	避難訓練には、地域の方にも参加して頂いている。しかし災害時(特に火災時)には、緊急連絡体制網による職員の招集や地域住民の方へ協力を要請する時間を作ることが難しいと考えられる。	物理的に一番身近な地域住民の協力を、効率的に得られるようにする。	グループホーム外壁にベルを設置する。災害時にベルを鳴らし、地域へ災害を知らせることで協力の要請に繋げる。 (運営推進会議を通し、地域の自治会長の理解は既に得ている)	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。